社会福祉法人　ゴウディングコミュニティ

avancer『アヴァンセ』

令和３年度・第５号

令和３年９月吉日　所長　海老澤政昭

８月２０日（金）から９月１２日（日）までの緊急事態宣言の中、新学期を迎えます。学校再開後の感染拡大が心配されるところですが、今まで通りの感染予防対策を維持しつつ、事業所、各家庭と連携し、この危機を乗り越えていきたいと考えています。ご協力よろしくお願いします。

さて、暑い夏が過ぎると、秋野菜、椎茸等々、実りの秋を迎えます。生活、Ｂ型、デイそれぞれが野菜の栽培を行なっています。サツマイモの収穫もそれぞれが予定しています。どうぞ、楽しみにしていてください。

私たちは毎日、仲間たちや子どもたちに支援を系統的かつ継続的に行っています。ふと、疑問に思うことがあります。「支援」と「お世話」、何が違うのだろうか、と。

「支援」を「支え」と表現することもあります。「支え」には「心の」支えもあります。職員の名称（配置基準上）には、支援員、指導員、世話人等々の明記があります。現在、生活介護における職員は「生活支援員」、放課後等デイサービスの職員は「児童指導員」、就労継続支援Ｂ型の職員は「職業指導員」「生活支援員」、共同生活援助の職員は「世話人」「生活支援員」となっています。共同生活介助における「世話人」と「生活支援員」の配置基準上の違いは、利用人数を基準とした場合は「世話人」、障害区分ごとの人数を基準とした場合は「生活支援員」となっています。支援内容についての違いはないようです。では、語句の意味を考えてみると、「世話」とは「気を配って面倒を見ること。手数をかけて援助すること」（広辞苑）とあり、「支援」とは、「支え助けること。援助すること。」（広辞苑）とあります。比較をしてみても大きな違いは感じられません。でも、なんとなく違いを覚えるのは私だけでしょうか。この違いは多分、生活の主人公たる仲間たちや子どもたちの「主体性の尊重」がカギとなると思っています。私たち職員は時に「善意のエゴイズム」に支配されてしまうことがあります。その時こそ、仲間たちや子どもたちの主体性が見落とされてしまっている時なのだと考えられます。自分たちの行なっている「系統的かつ継続的な支援」を常に、客観的に、「仲間たちや子どもたちの主体性を尊重しているか。」を大切にしていきたいと思います。「支援」が「おせっかい」にならないように。

夏休みを振り返って

Ｂ型

生活介護

放デイ

緊急事態宣言の中、ごうでぃんぐ岩世ヶ原では、事業所内での取り組みを中心に行いました。
Ｂ型では、パンの販売や夏野菜の収穫で工賃アップに繋げました。生活介護では、生け花や習字、紙すきに針を使おう、夏祭りの手作り露店など、週の予定にバラエティ性を組み込んで楽しさを引き出した支援を行いました。放ディでは、プールはもちろん、創造的な取り組みとして思考を凝らした壁画作りにチャレンジしました。３事業所とも利用者を主体としたアイデアが満載した支援がフル回転の夏を過ごしました。

【編集後記】

利用者でもコロナワクチン接種を打ち始めた方々が増えてきました。副反応は個人によって違います。接種につきましては、主治医とご相談の上お願いいたします。次回は、宣言が解除されているとよいですね。